

平成27年度後期全学モジュール I (テーマ:現代経済と企業活動)

- 現代社会は，資源を有効活用する経済活動のもとに成立している
- その原理や制度，歴史的変遷などの観点から現代を考察する

経済活動と社会

村田省

経済政策と公共部門

島田章

企業の仕組みと行動

宇都宮

成立必然？



自由主義（経済、憲法）

×⇓×

○⇓×

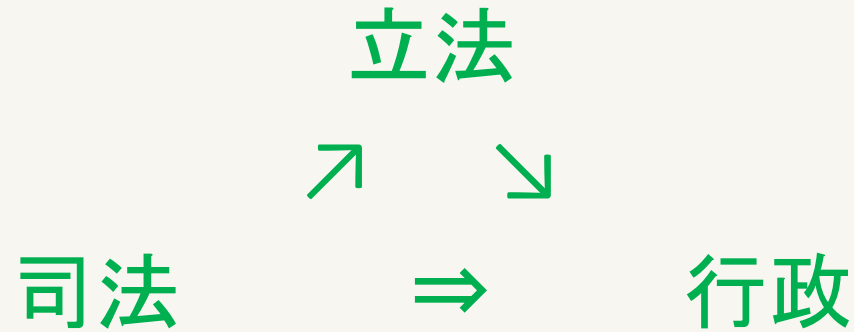
不況、弱者

資源配分、公共・弱者



財政・金融政策（介入） 市場メカニズム 修正

—企業の意思決定、管理、責任—



マクロ的介入

ミクロ的修正

(国) 内閣

〇〇省

〇〇省

(景気対策)

↓

(規制緩和)

(県) 長崎県など、 (市町村) 長崎市……

—現代の企業活動—

現代企業の仕組みと行動

- なぜ企業はたいてい、株式会社か？
株式会社と所有と経営の分離
大きくなった企業にて、どうやって意思決定する？
- なぜ管理が必要か？
管理と科学的管理法
- なぜ企業による活動に目配りする必要があるか？
企業の社会的責任

カテゴリー: 多様性と共生
全学モジュール I 科目

A2 環境と人類の持続可能な発展

産学官連携戦略本部

本モジュールで学ぶこと

目的: 人類の持続可能な発展 (**sustainable development, SD**) の実現

学ぶこと:

- 環境問題の基本的考え方や国際環境法の特徴・理念・精神など
- 「環境基本法」と進むべき方向や取るべき行動
- 国内の環境関連法

具体的な学習内容

国際環境法（環境問題と国際環境法）

国内環境法Ⅰ（環境基本法他）

国内環境法Ⅱ（環境関連法）

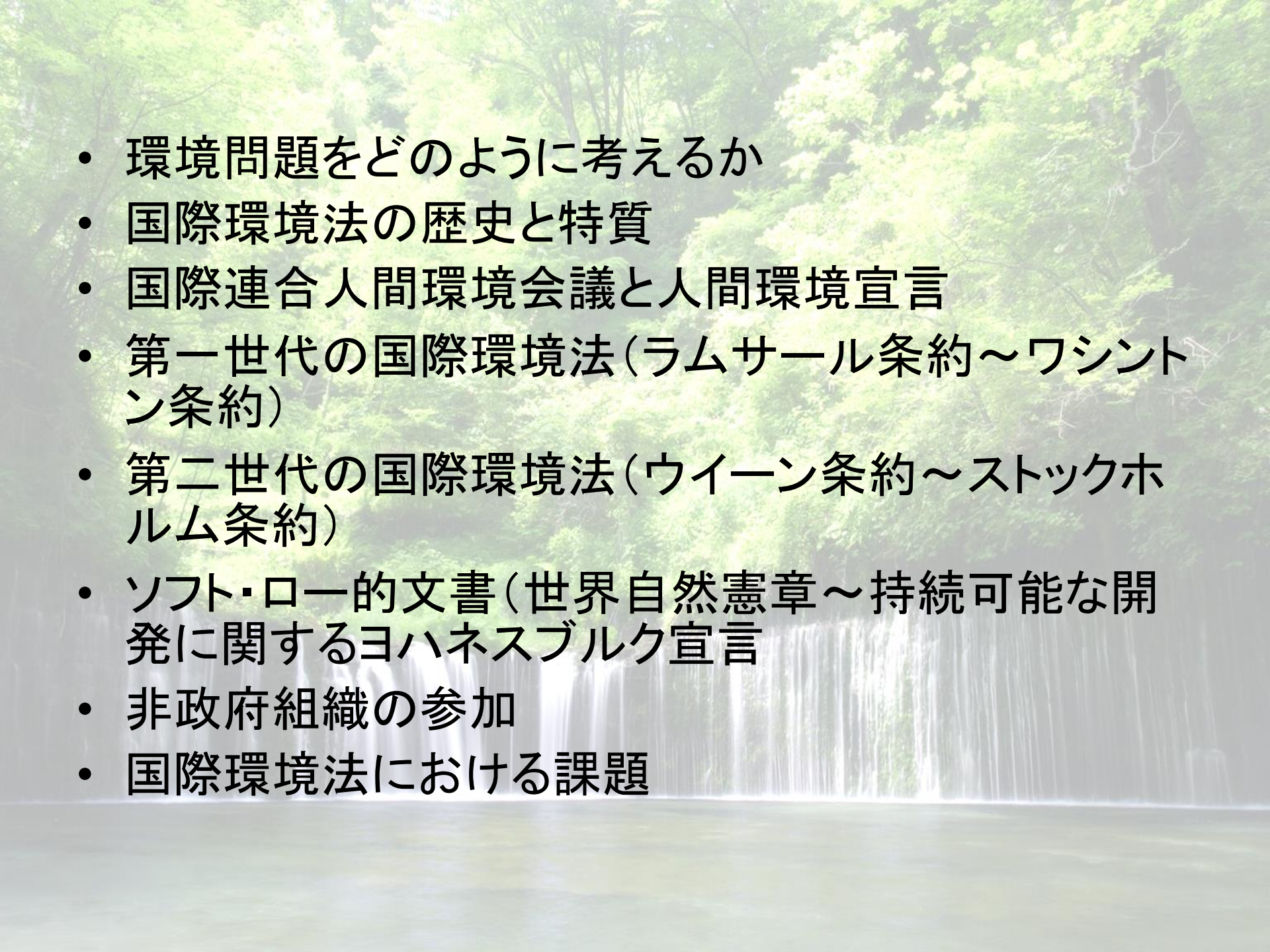
国際環境法

○環境問題に対する考え方

○国際環境法の歴史と特質

○国際環境法の概要

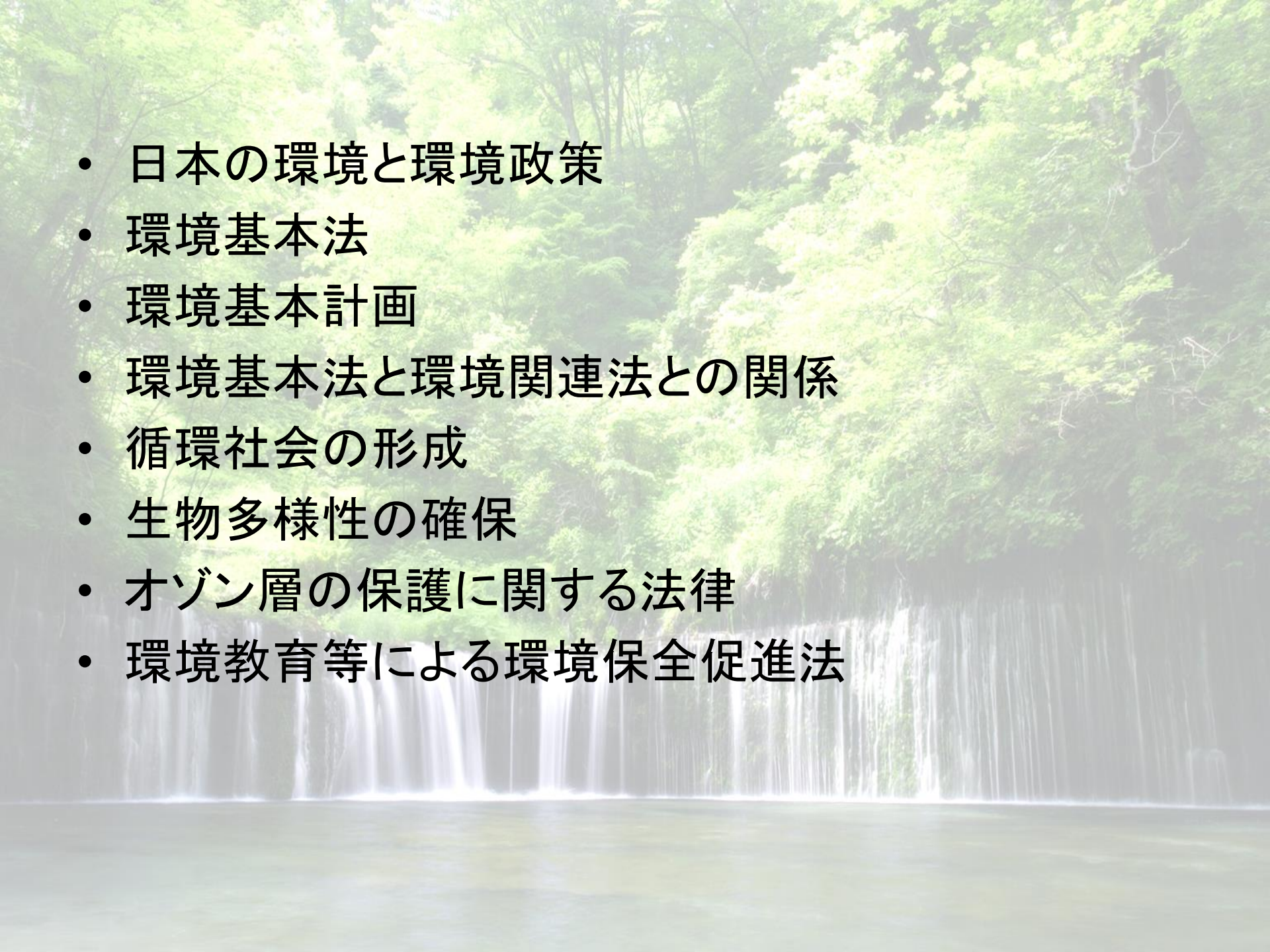
環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神について理解を深める。

- 
- 環境問題をどのように考えるか
 - 国際環境法の歴史と特質
 - 国際連合人間環境会議と人間環境宣言
 - 第一世代の国際環境法(ラムサール条約～ワシントン条約)
 - 第二世代の国際環境法(ウィーン条約～ストックホルム条約)
 - ソフト・ロー的文書(世界自然憲章～持続可能な開発に関するヨハネスブルク宣言)
 - 非政府組織の参加
 - 国際環境法における課題

国内環境法 I

- 国内の環境問題と対策および歴史
- 国際環境法との関係
- 「環境基本法」等

環境に関する我が国の基本的考え方を理解し、我々が進むべき方向や取るべき行動等について理解を深める。

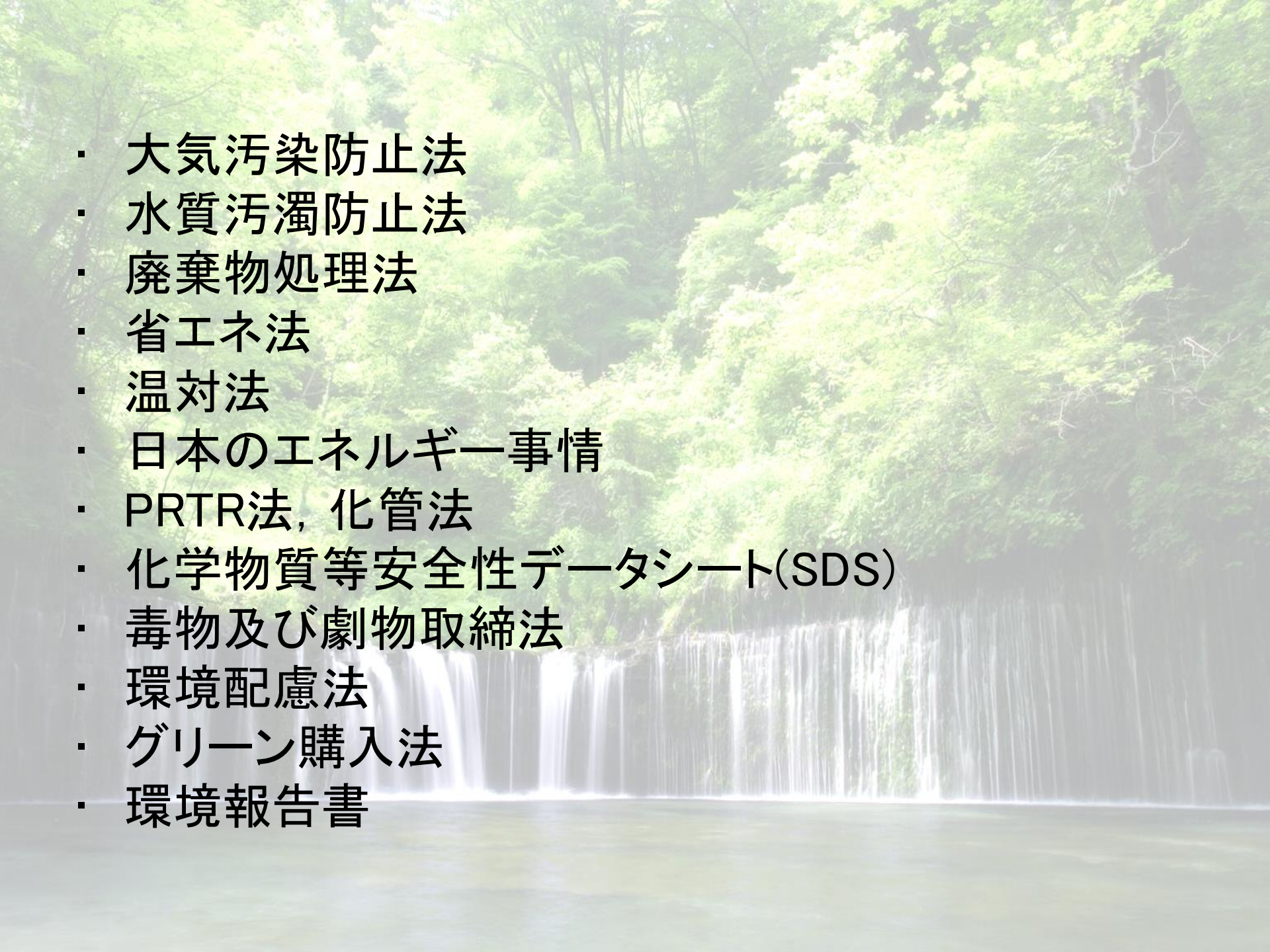
- 
- 日本の環境と環境政策
 - 環境基本法
 - 環境基本計画
 - 環境基本法と環境関連法との関係
 - 循環社会の形成
 - 生物多様性の確保
 - オゾン層の保護に関する法律
 - 環境教育等による環境保全促進法

国内環境法Ⅱ

○国内の環境関連法等

○環境報告書と環境コミュニケーション

国内の環境関連法を理解するとともに、環境コミュニケーションの重要性について理解を深める。

- 
- A lush green forest with a waterfall in the background. The waterfall is in the lower right, cascading down a rocky ledge into a pool of water. The forest is dense with various shades of green foliage. The overall scene is bright and natural.
- ・ 大気汚染防止法
 - ・ 水質汚濁防止法
 - ・ 廃棄物処理法
 - ・ 省エネ法
 - ・ 温対法
 - ・ 日本のエネルギー事情
 - ・ PRTR法, 化管法
 - ・ 化学物質等安全性データシート(SDS)
 - ・ 毒物及び劇物取締法
 - ・ 環境配慮法
 - ・ グリーン購入法
 - ・ 環境報告書

全学モジュール説明会

2015年度教養教育
全学モジュールⅠ

「日本を知り、世界を知る」

趣旨

⊗ グローバル化の影響

⊗ 多文化社会の進展

→ 世界を知ることの重要性

→ 日本(と日本人)を知ることから始まる

⊗ モジュール I :

空間軸: 日本、アジア、欧米、世界

視点: 文化、歴史、政治、思想、経済、社会、交流

趣旨:

- ・多様な自己を発見することにより、多様な他者への理解を深める。
- ・様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につける。

到達目標

- ④ それぞれのテーマに関する**基礎的知識**を習得する。
- ④ 世界や日本における多文化状況に関心を持ち、その状況が成立した理由と経緯、**多様性の意義**について考えるようになる。
- ④ グローバル化の進展に伴って生じている様々な**多文化状況に適応する素養**を身につける。
- ④ 物事を多面的に捉え広い視野から考える能力(**批判的思考力**)を鍛える。

科目編成

科目名	担当者名	専門分野	キーワード
前近代の日本と世界	佐久間 正	政治思想史	近代・前近代 本土国家、琉球王国 中華帝国 土着・外来・日本化 開国・鎖国
近現代のアジアと日本	コンペル ラドミール	政治学	沖縄 日本近現代史 政治学
人々の暮らしから見る現代日本	野上 建紀	考古学	遺物 近世考古学 陶磁器 伝統産業

科目概要

科目名	概要
前近代の日本と世界	ユーラシア大陸の東辺、太平洋の西辺の島嶼国家日本は、前近代においても、アジアをはじめ列島以外の地域と様々な「交流」が行われており、そうした中で「日本」(遅れて「琉球王国」)が形成されていった。そのような交流の様態と、それとの緊張関係の中で形成されていった「日本」(琉球王国)の特質を国家・社会・文化等の側面から考えてみよう。
近現代のアジアと日本	沖縄を注視することによって、日本をはじめ東アジアの近現代史における国民国家形成と変容への理解を深め、現代社会の仕組みについての洞察力を鍛える。
人々の暮らしから見る現代日本	私たちは「モノ」に囲まれて生活している。そして、「モノ」には個人や家族、社会が反映されている。そのため、「モノ」を観察すれば、その社会背景を知ることができる。授業では、生活に使われた「モノ」の一つである陶磁器の変遷を通して、陶磁器に投影された人々の暮らし(生活、産業)の変化を見ていく。そして、過去がどのように現在につながっているか考える。

学生の皆さんへのメッセージ

社会的・文化的・言語的に多様性を持つ
様々な組織の一員として生活し、働く。

「日本を知り、世界を知る」



「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」

＝知的な営み／必要不可欠な能力

本モジュールでぜひ身につけて下さい！

薬と生命科学を理解するための 基礎科学

担当：薬学部教官

生命とは？



生きているとは？



DNA(遺伝子)

いつまでも健康
であってほしい

DNAもタンパク質も、そして動物、植物、微生物も、すべて**化学物質**で出来ている。
生命は、**物質間の反応**で維持されている。

生

薬 = 毒

死

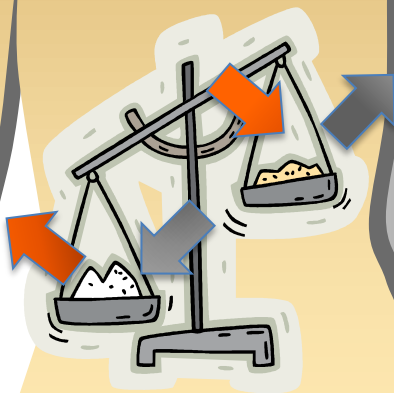
正常

生命

異常

物質A \leftrightarrow 物質B

健康



病気

薬と毒 = 体の中のさまざまな化学反応に影響を与える化学物質

薬と生命科学を理解するための基礎科学



ビギナーのための有機化学

元素・炭化水素・官能基・触媒

ビギナーのための物理化学

熱力学・エネルギー・DNA・RNA・タンパク質

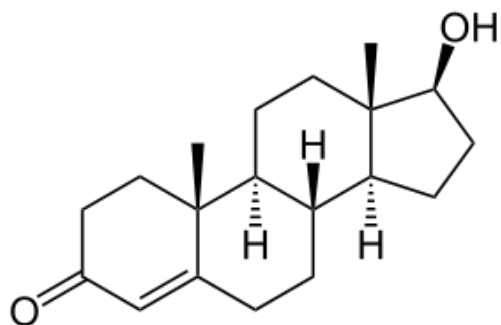
ビギナーのための生物学

遺伝子・酵素・細胞の機能、発がんのメカニズム、創薬研究、診断法開発、遺伝子治療

ビギナーのための有機化学

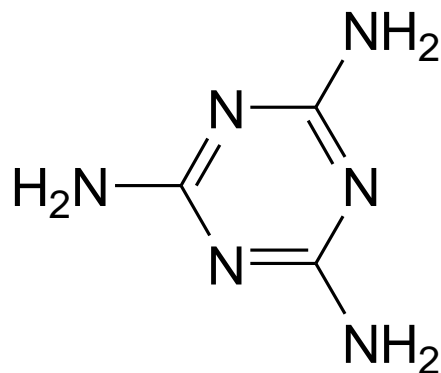
有機化合物は、ヒトの生活に欠かせない衣類、食品、医薬品等様々なものの原料となる。さらに、生命現象も有機化学反応が織りなすものといえる。この講義では、有機化学の基礎を学ぶ事で、生物の営みや自然現象を有機化学の視点から正しく理解し、説明できる力をつけることをねらいとする。

オリンピック ドーピング



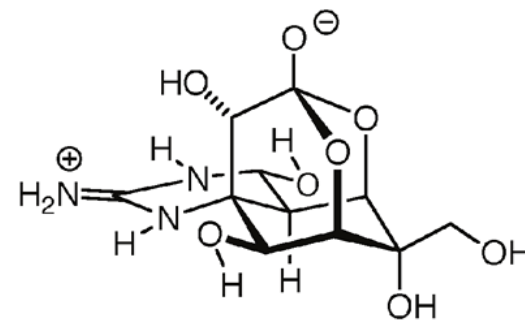
ステロイド

<中華ボイス>金メダルよりも
安全な粉ミルクを！



メラミン

河豚毒



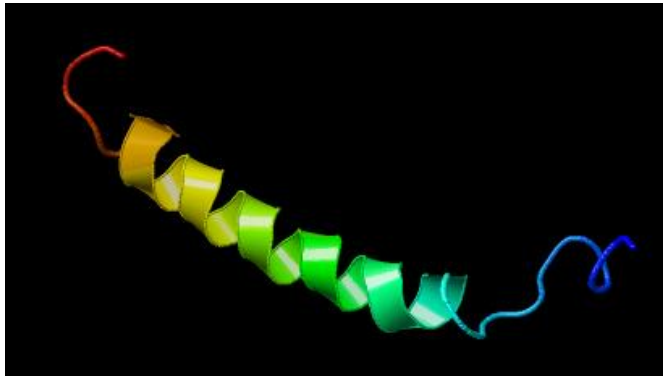
テトロドトキシン

授業方法の特徴: デモ化学実験 & クリッカー利用

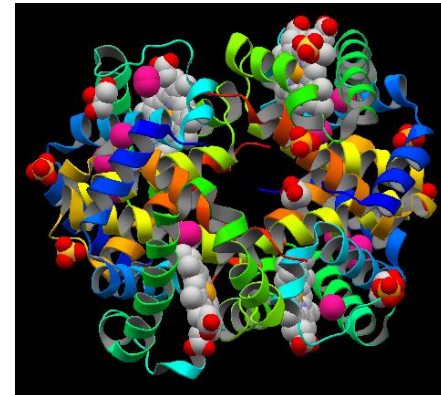
ビギナーのための物理化学

自然科学の分野において、物理学の果たしてきた役割は大きい。この講義の前半では、物質の性質や状態変化などを数量的に取り扱う熱力学について、後半では、生体成分(DNAやタンパク質)を中心に、その物性や機能解析において、物理学がどのように利用されているかを原理・応用両面から理解することを目的とする。

コラーゲン(線維状タンパク質) の立体構造



ヘモグロビン(球状タンパク質) の立体構造



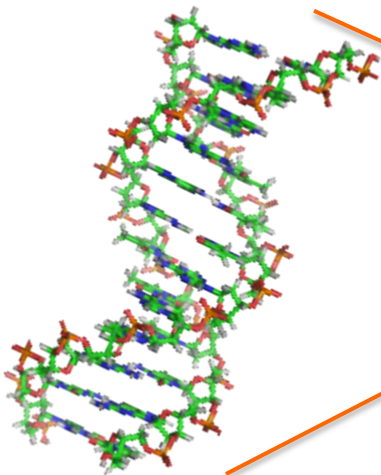
物質の状態(構造)は、ギブスエネルギー変化($\Delta G = \Delta H - T\Delta S$)によって決定される。

授業方法の特徴: グループ学習とプレゼンテーション

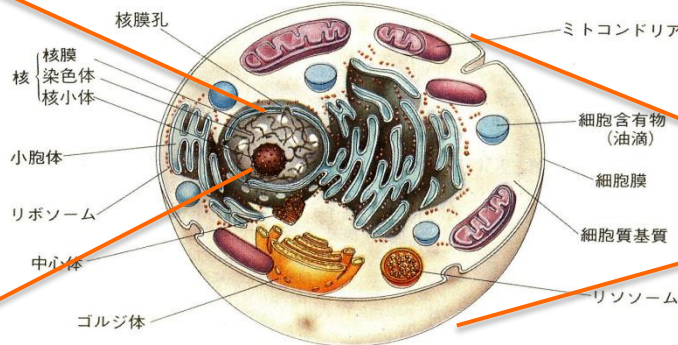
ビギナーのための生物学

生物学の基礎を学び、「遺伝子」と「疾患」との関わりや最先端医薬品(バイオ医薬品)や組換え食品のあり方を理解する。また、それらの知識を基にして、現代社会における課題を抽出してその問題を解決するための演習を行い、自ら学び、考え、主張し行動改革できる能力を養う。

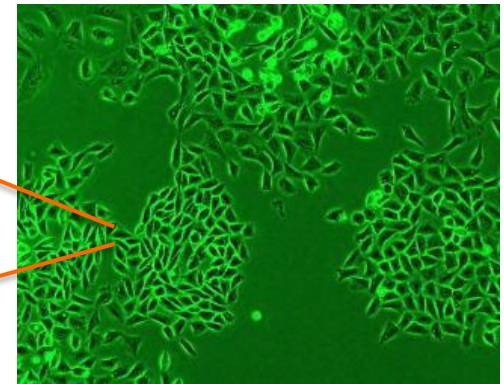
ゲノム DNAの二重らせん



細胞の構造



培養中の 動物細胞



授業方法の特徴: グループ・プレゼンテーション

科学・技術の恩恵と限界
全学モジュール I 科目

リスク社会を理解する

医療と健康 社会科学 科学技術

リスク社会を科学する

対象

- 多文化社会学部
- 教育学部
- 経済学部
- 薬学部
- 水産学部

講師陣

- 松田尚樹
 - 原爆後障害医療研究所
- 大沢一貴
 - 先導生命科学研究支援センター
- 中山守雄
 - 薬学部
- 片山 朗
 - 経済学部
- 林 秀千人
 - 工学部
- 田中 俊幸
 - 工学部
- 久保 隆
 - 産学官連携戦略本部



医療と健康の安全・安心

- 五感で感じないうちに我々に忍び寄り、健康に重篤な影響を及ぼすこともある放射性物質の拡散や感染症の拡大は、人々の安全と安心を大きく揺るがしてきた。
- 本授業では、放射線と人獣共通の感染症を基礎医学生物学及び薬学の観点から正しく理解することを狙いとして、その本体、健康リスク、予防、診断及び治療などに関わる基礎知識を習得する。

動物実験と
感染症

放射線の利用と
健康リスク

どう思いますか？

1. 職場で私の隣に座っている男は事故後に福島原発内で働いていたらしい。本人は何も言わないが、きっと被ばくしているに違いない。私は彼から被ばくしているのか、また、彼の持ち物を触ると被ばくするのか？
2. 原発事故後に福島から大阪に避難しています。東北の瓦礫を大阪府でも焼却するようになってから鼻血がよく出るようになりました。きっと放射能のせいには違いないと思うのですが、このまま住み続けても大丈夫でしょうか？

リスク社会と社会科学

- 社会保障（social security）制度や労働市場の改革、教育をはじめとした安全策（safety net）の拡充などにより、「チャンスを見つけやすい社会」を目指すとともに、新たなコミュニティを基盤とする「互いに認め合い交流しやすい社会」を再構築していくことの重要性を理解する。

地域コミュニティ

格差・貧困

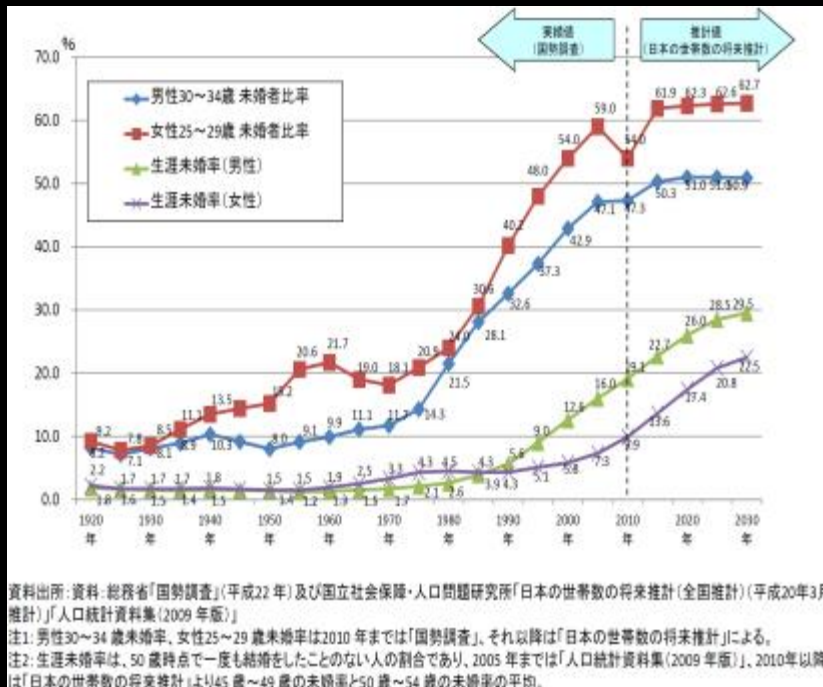
共生社会
消費者市民社会

経済社会システム

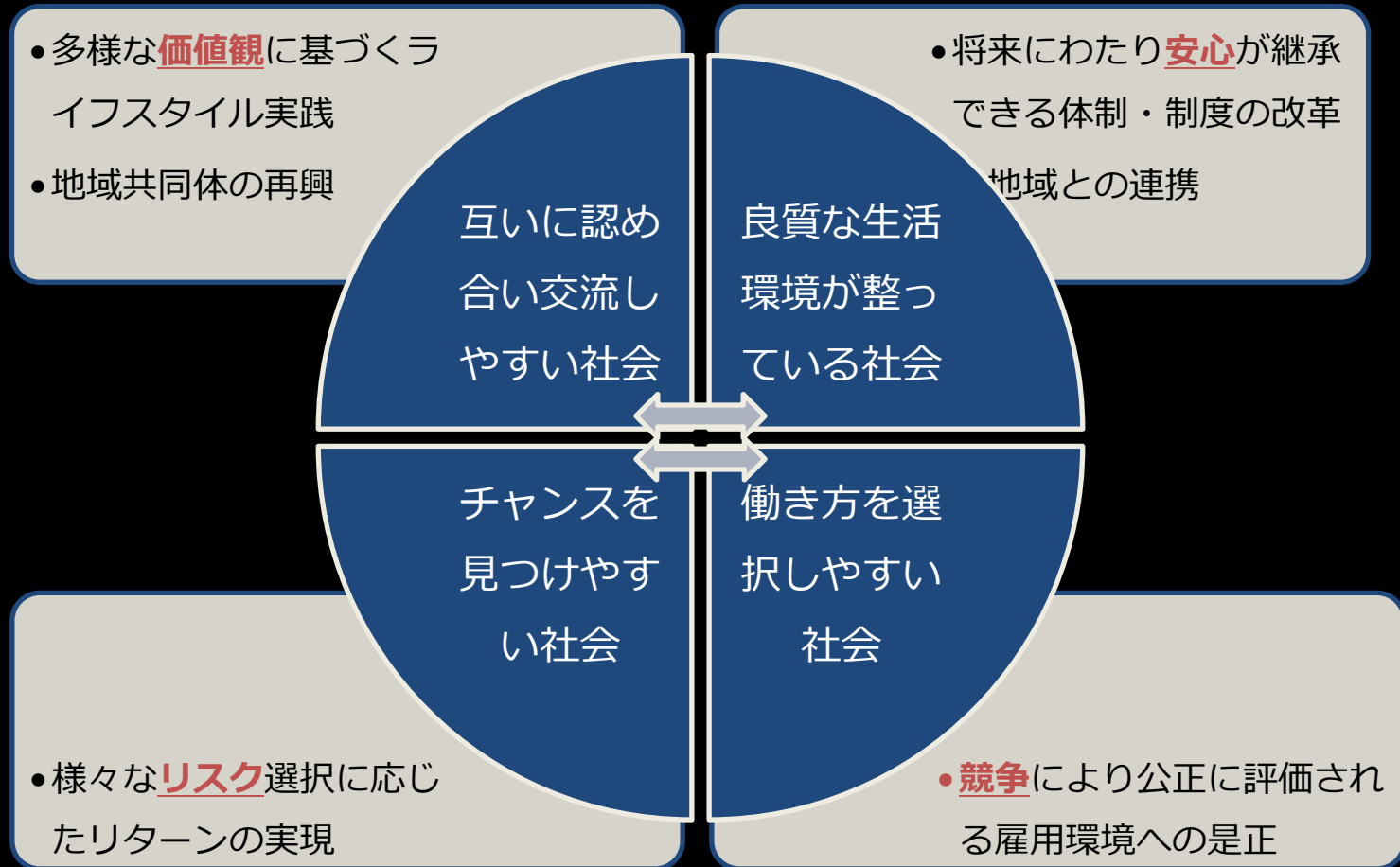
家庭を持たない事態、経済弱者となる事態は、 今や誰にでも起こりうる！

生涯未婚率は、2030年には男性で約30%、女性で約23%になる見込み

2013年の生活保護受給者数は216万人、2011年に過去最高を更新して以降増加傾向



「やり直しが可能で共感できる成熟社会」 を目指すためには、どうすればいいのか？



科学と技術の安全・安心

- 人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。
- 一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。
- その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。

科学技術の安全

システムの安全と安心

安全文化と安心

一定のリスクは常に存在します。

システムの中で安全は絶対的な価値として追求されなければなりません、それで安心が保証されることは避けるべきです。

なぜ？

そのからくりを、自然科学、社会科学の両面から解き明かします。

科学・技術の恩恵と限界
全学モジュール I 科目

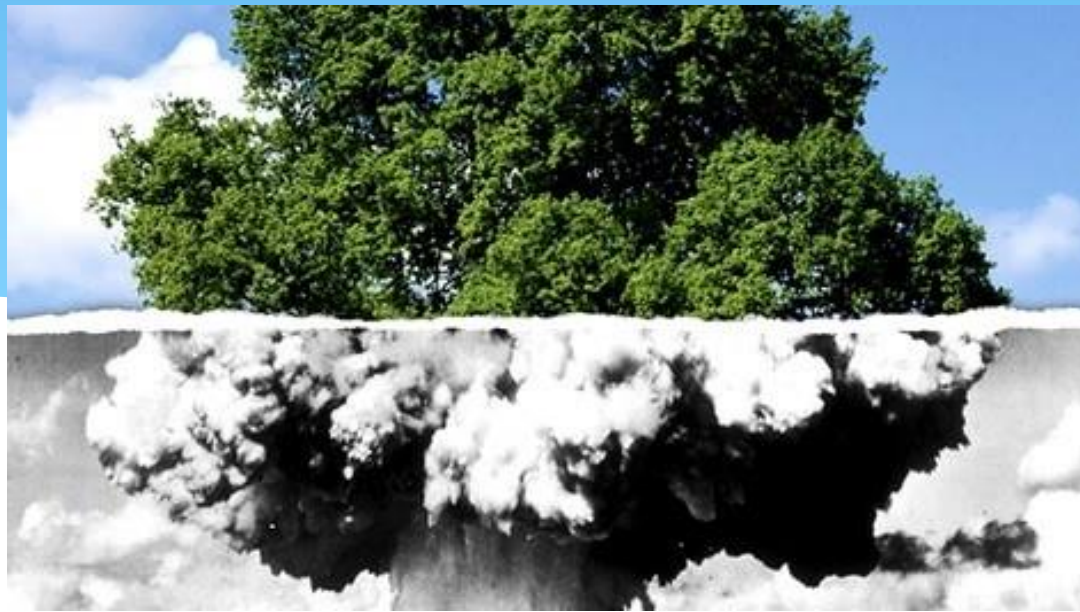
リスク社会を理解する

平成27年度後期開講！

全学モジュール I 科目

A6. 核兵器のない世界を目指して

中村桂子(核兵器廃絶研究センター(RECNA))





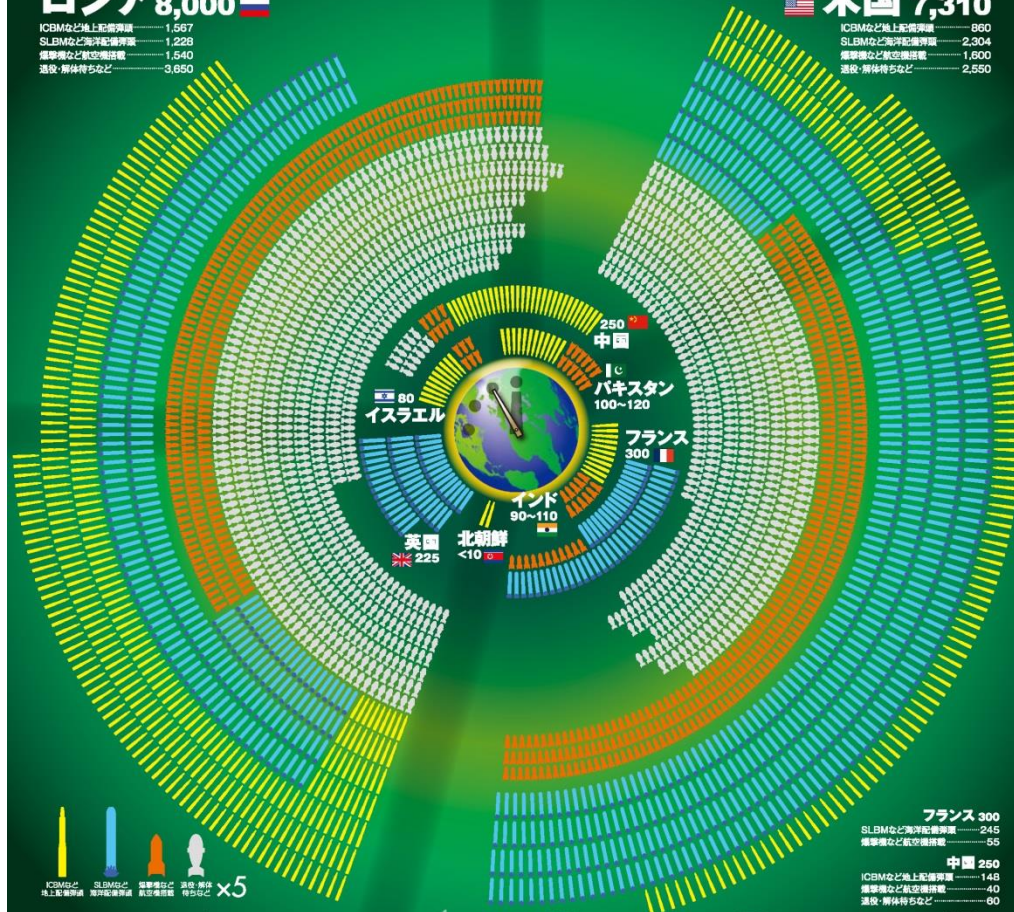
存在する限りは使われる 世界の核弾頭データ 2014.8

ロシア 8,000 

ICBMなど地上配備弾頭 1,567
SLBMなど海洋配備弾頭 1,228
爆撃機など航空機搭載 1,540
運送・解体待ちなど 3,650

米国 7,310 

ICBMなど地上配備弾頭 860
SLBMなど海洋配備弾頭 2,304
爆撃機など航空機搭載 1,600
運送・解体待ちなど 2,550



ICBMなど 地上配備弾頭
SLBMなど 海洋配備弾頭
爆撃機など 航空機搭載
運送・解体 待ちなど ×5

16,400

前年比：-900
※：-400
□：-500

世界終末時計
(中央)

Doomsday clock
核戦争などによる人類の滅亡(終末)を午前零時になぞらえ、その数未だの残り時間を「零時まであと何分」という形で象徴的に示す時計。現在「5分前」。

フランス 300
SLBMなど海洋配備弾頭 245
爆撃機など航空機搭載 55

中国 250
ICBMなど地上配備弾頭 148
爆撃機など航空機搭載 40
運送・解体待ちなど 60

英国 225
SLBMなど海洋配備弾頭 225

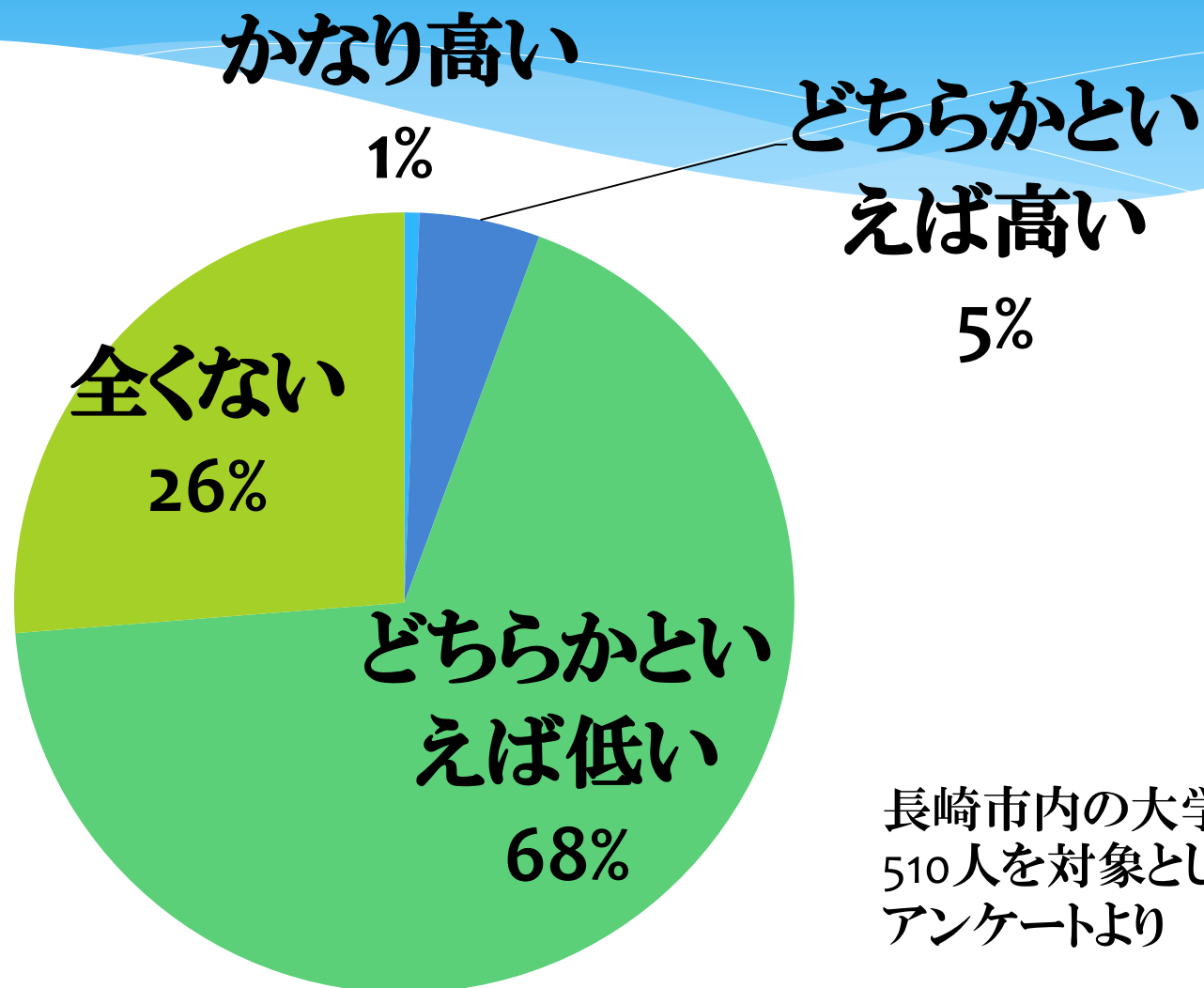
イスラエル 80
ICBMなど地上配備弾頭 50
爆撃機など航空機搭載 30

パキスタン 100~120
ICBMなど地上配備弾頭 80
爆撃機など航空機搭載 40~60

インド 90~110
ICBMなど地上配備弾頭 64
爆撃機など航空機搭載 36~56

北朝鮮 <10
? ICBMなど地上配備弾頭 <10

Q:核兵器がなくなる可能性はどれくらいあると思いますか?



長崎市内の大学生
510人を対象とした
アンケートより

テーマの趣旨

世界から核兵器を廃絶するために必要となる、具体的な知識やアプローチについて、さまざまな角度から学び、考察する。

- 核兵器とは何か、その基本的仕組みや、核兵器をめぐる歴史と世界の現状について基礎知識を得る。⇒「核兵器とは何か」
- 核兵器がなぜ生まれ、今も維持されているのか、その背景にある国際社会の特徴と「平和」を実現するための様々な取組みについて学ぶ。⇒「国際社会と平和」
- 長崎における被爆の歴史、社会への影響について学び、被爆体験の継承の問題について考える力を養う。⇒「被ばくと社会」

皆さんへのメッセージ

広島・長崎の被爆者をはじめ、世界中の市民が核兵器廃絶を訴え続けています。にもかかわらず、被爆から70年が経とうとしている今も、世界には**1万6千発**もの核兵器が存在しています。「核兵器のない世界」は、単なる理想や夢物語に過ぎないのでしょうか？

本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ？」に答えるとともに、「**過去**」「**現在**」「**未来**」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりを皆さんと考えていきたいと思えます。

被爆地・長崎だからこそ学べる、特色あるモジュールです！

A7 暮らしの中の科学

テーマ責任者 藤村誠

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	暮らしの中の科学1		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	暮らしの中の科学2		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	藤村 誠	責任部局	工学部
趣 旨	<p>自然の偉大さや美しさに驚きや感動を覚えた経験はありませんか？人類は古くから、自然現象を理解しようと多大な努力を重ねてきました。自然現象は、私たちの生命維持に不可欠な食料・資源の源になったり、時には甚大な災いをもたらすこともあります。そのため、私たちは生きていく上で、自然現象を正しく理解していく必要があります。自然科学とは、自然界で起きる様々な事象の法則性を明らかにする学問です。つまり、自然現象をいかに抽象化し、近似するかを模索する学問です。一方、技術とは、それらの成果を巧みに利用して人間社会に役立てるための仕組みを作ることです。自然科学と技術の発展によって、我々の生活はとても豊かになってきました。科学技術の限界や危険性を正しく認識すると共に、謙虚な姿勢で自然現象の真理を見抜く目を養うことは、私たちが暮らしていく中で、とても重要なことです。</p> <p>本テーマでは、高校において修得しておくべき自然科学の内容を、大学生の視点から多面的に意味づけ再整理した上で、科学的な思考法と方法論の基礎を学び、身の回りの生活や先端科学技術と自然科学との関わりを理解していくことを目標としています。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・数学や物理、化学、生物が苦手な方も大歓迎です。 ・共通ルール(定義)はしっかり覚える必要がありますが、それ以上の暗記は必要ありません。 ・自然科学を学ぶことは、“自然現象の言語”を学んでいると言えるかもしれません。 		

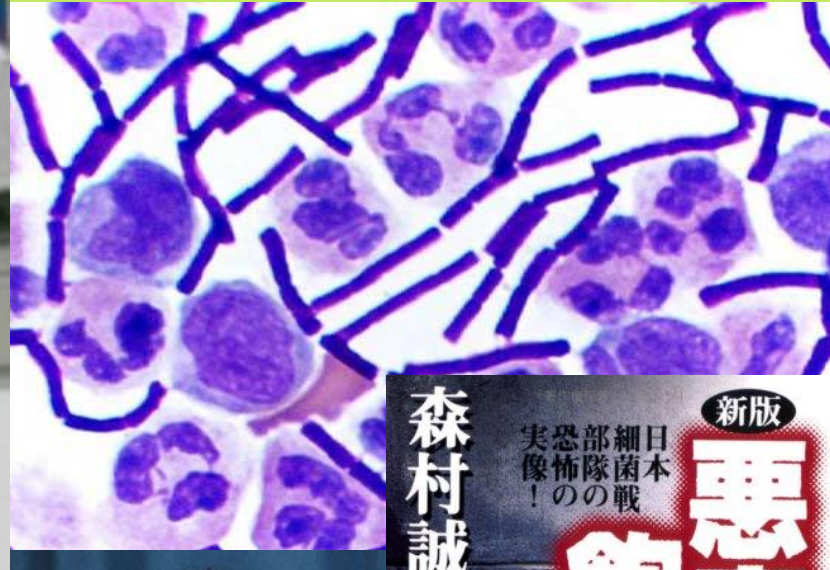
科目名	担当者名	概要	キーワード
暮らしの中の 情報科学	藤村 誠 小林 透	身の回りの生活環境・社会における 情報科学 、特に情報処理に関する数理科学の基礎を理解する。	離散数学、 情報理論 符号化、 ネットワーク
身の回りの中の 物理科学	多田 彰秀 杉本 知史	身の回りの生活に関わる、力やエネルギー、流れや波などに関する基本法則を学び、それらを利用した身の回りの「 ものの構造 」と 動作原理 を理解する。	力とエネルギー 流れや波 物理に関する基本 法則
環境・生活と化学	山田 博俊 木村 正成	地球環境や日常生活におけるさまざまな現象や物質の振る舞いを、 原子・分子のレベルから 系統的に理解する。	原子と分子、 環境・エネルギー、 有機生命化学、 医薬品合成

The Ebola Virus

100 million of these virus, the causative agent of a severe form of viral hemorrhagic fever in human with a 50-90% fatality rate. The Ebola virus is 80-100 nm in diameter and up to 1400 nm long. It contains both structural proteins (inner shaded) and structural lipids from the host cell (gray shaded). The model is based on X-ray analysis, EMR spectroscopy, and general structural data published in the last few decades.



9-11
was an
INSIDE



微生物と人間社会

医学科提供 全学モジュール I 科目

臨床感染症学 泉川公一

4TH GRADE
GREENDALE SCHOOL
FRANKLIN PARK NJ 08852

SENATOR DASCHLE
509 HART SENATE OFFICE
BUILDING
WASHINGTON DC 20510



テーマ：教育の基礎（15-A9）

区分：全学モジュール I 科目

カテゴリー：変容する環境とリテラシー

対象：多文化・経済・薬・水産

2015年度・モジュールテーマ説明会・資料

山岸 賢一郎
(長崎大学教育学部)

「教育の基礎」は、
どんな方にお奨め？

「教育の基礎」は、こんな方にお奨め

- **教員免許状の取得を希望する、
多文化、経済、水産の方**
⇒ **必ず受講**
(推奨モジュールⅡも)
- **「教育」や「教職」に、強い関心のある方**
⇒ **お奨め**

「教育の基礎」は、
どんな感じ？

「教育の基礎」の構成

教育の基礎(モジュールⅠ): 1年・後期

教育原理論 ... 免許状取得に必須

教育心理 ... 必須

教育行政・制度論 ... 必須

「教育の基礎」では、教育に関する**基礎的事項**について、たとえば、**教育の理念や歴史、児童生徒の心理、学校教育に関する諸制度**、等々について学びます。

※ なお、各科目については、『モジュール
テーマガイドブック』の24頁を参照。

「子どもが学校に通うのは、当たり前？」

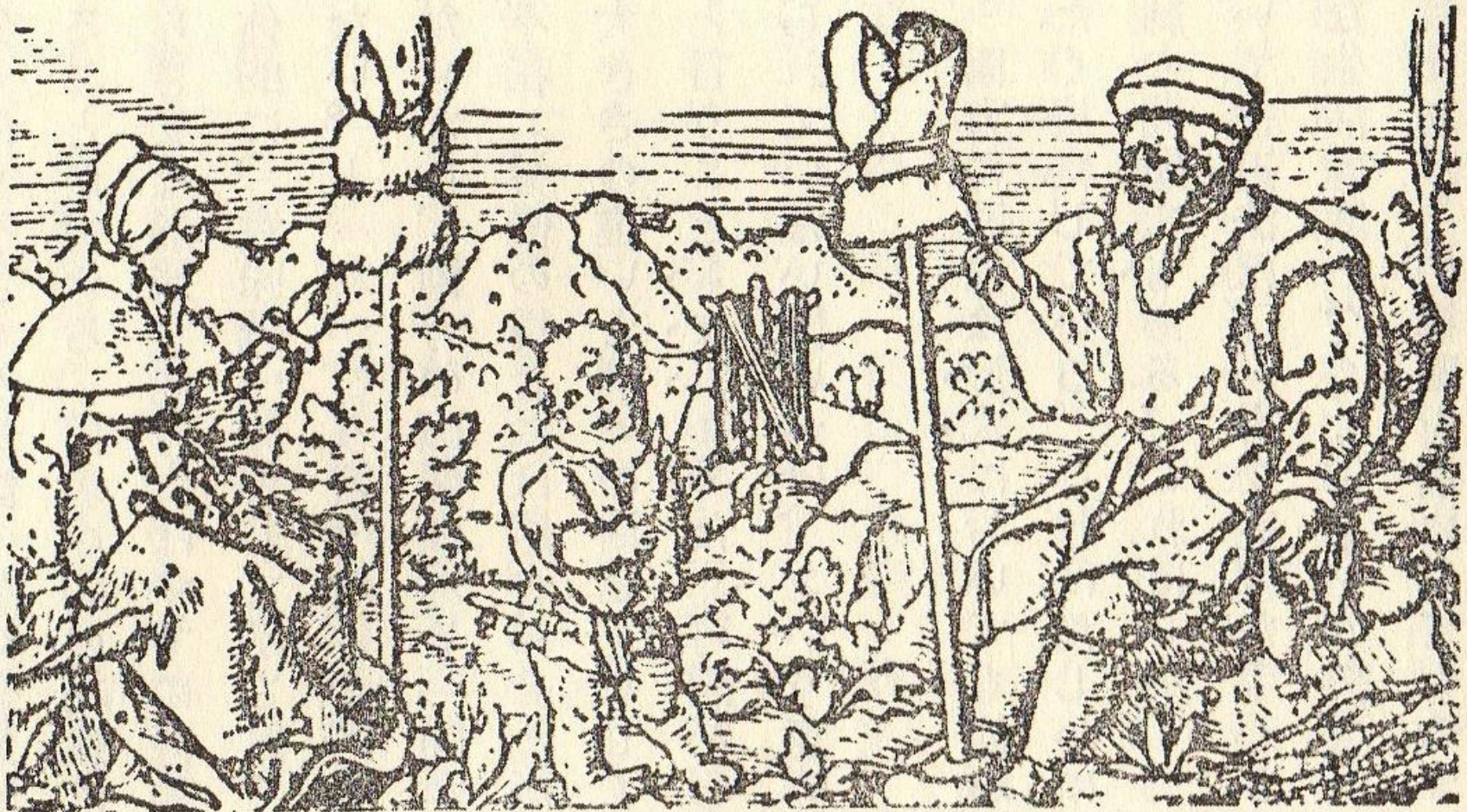


図2 農民の生活、木版、1502年

16世紀初頭の、ヨーロッパの木版画

K. モレンハウアー、今井訳、『忘れられた連関』みすず書房、1987年、47頁

「最近の大学生は、ナヨナヨ...ってホント？」

「近年、家庭の教育力が、ヤバイ...の？」

教員免許状の取得と、 推奨するモジュールⅡの話

推奨するモジュールⅡ、その1： 教育と文化(15-a14)

「教育と文化」(モジュールⅡ)： 2年・前後期

教育相談

... 免許状取得に必須

文学と社会

芸術

※ なお、各科目については、『モジュール
テーマガイドブック』の42頁を参照。

推奨するモジュールⅡ、その2： 教育と社会(15-a15)

「教育と社会」(モジュールⅡ)： 2年・前後期

教育相談 ... 免許状取得に必須

身のまわりの科学

環境と社会

※ なお、各科目については、『モジュール
テーマガイドブック』の43頁を参照。

教員免許状の取得を希望する方へ：幾つか注意

- **簡単に免許状を取得できる、わけではない。**
 - **モジュール科目以外の単位も、たくさん必要**。教職に対する熱意・情熱が必須。
- **学部によって、取得可能な免許状や、取得までの道のりは、異なる。**
 - **各学部で行われる説明会等**に必ず参加。
- **取得したら必ず先生になれる、わけではない。**
 - いわゆる「正規の」「学校の先生」になるには、各自治体の実施する「**教員採用試験**」に合格する、等の必要。

「教育」や「教職」に強い関心がある方へ

- **受講を歓迎します。**
 - あなたの「興味」を満たすような「発見」がある、かも。
- **ただし、次の点は、ご了承ください。**
 - 本テーマ「教育の基礎」も、推奨するテーマも、教員免許状の取得に関わる科目は、**教員免許状の取得のために必要となる事項を、授業の際に取り扱わないわけにはいきません。**言い換えると、「こんなの興味ない」が通用しません。

もう一度。
「教育の基礎」は、
どんな方にお奨め？

「教育の基礎」は、こんな方にお奨め

- **教員免許状の取得を希望する、
多文化、経済、水産の方**
⇒ **必ず受講**
(推奨モジュールⅡも)
- **「教育」や「教職」に、強い関心のある方**
⇒ **お奨め**

環境をめぐる諸問題

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	環境をめぐる諸問題		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	環境と社会生活	環境と社会の共生	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		

環境科学部学生は受講できません



<http://www.idcn.jp/>



<http://www.mofa.go.jp/>

生物多様性を考える

科目名	担当者名	概要	キーワード
生物多様性を考える	井口 恵一郎 吉田 謙太郎 山口 典之	地球上に生息・生育する種々の生物がお互いに競争・共存し、現在の複雑で多様な生態系が危ういバランスの上に成り立っていることを複数の事例を元に理解する。その上で、農業や水産の現状と目指すべき方向を学び、環境問題と食糧確保との関連を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。	生物多様性、生態系、生物間相互作用、食糧問題

全学モジュールの 目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
生物多様性を考える	○		◎		○		○				○	◎		◎	◎	



写真 1 : 現地調査



写真 2 : 実験風景



写真 3 : 地元の方との協議

<http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/>

都市環境を考える

都市環境を考える	杉山 和一 渡辺 貴史 片山 健介	近代日本のインキュベーターだった長崎の都市環境を皆さんと一緒に考えたい。長崎の都市環境といえば、直ちに斜面市街地における特徴的な景観や、海の見える光景が目に見え、そこでこれに交通面等から接近する。ただ本講座では、広域都市圏を対象とし、都市の持続可能性を求めて、里山や過疎化が進行している郊外地域の生活環境にも目を向ける。のみならず、明治から昭和戦前の華やかなりし長崎の歴史的景観にも思いを馳せ、長崎に紛うことなく、「近代」は来ていたことを確かめる。	都市環境、斜面市街地、里山、過疎地域、歴史的景観
----------	-------------------------	--	--------------------------

全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
都市環境を考える	○		○		○		◎	○		○	○			◎	○	



地球温暖化を考える

地球温暖化を考える	高尾 雄二 河本 和明 富塚 明 和達 容子	温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国際間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。	温室効果、地球温暖化、エネルギー収支、化石燃料、各国の立場
-----------	---------------------------------	---	-------------------------------

全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
地球温暖化を考える	○	○	○	○	○			○		○	◎			◎	◎	◎

講義の方式

- アクティブラーニング方式での講義を行う科目が多いです。
- グループワークがあります。
- 欠席や予習してこなかったりすると、グループメンバーに迷惑がかかります。

カテゴリー「変容する環境とリテラシー」

暮らしに活かす情報技術



上繁義史（ICT基盤センター）



「情報」を制すると世界が見える

どんな専門分野にも「情報」がつきもの
何をするにも「情報」がモノをいう時代

「情報」を味方にしたいと思いませんか





目標：「情報」 使えるようになる

- モジュール「暮らしに活かす情報技術」では情報活用，セキュリティ，情報技術の視点で3科目を提供

情報の活用

- 人に魅せるレポートとは，データの表し方の真相を学ぶ

情報社会の安全と安心

- 情報（技術）を正しく守って使うセキュリティの智慧とは

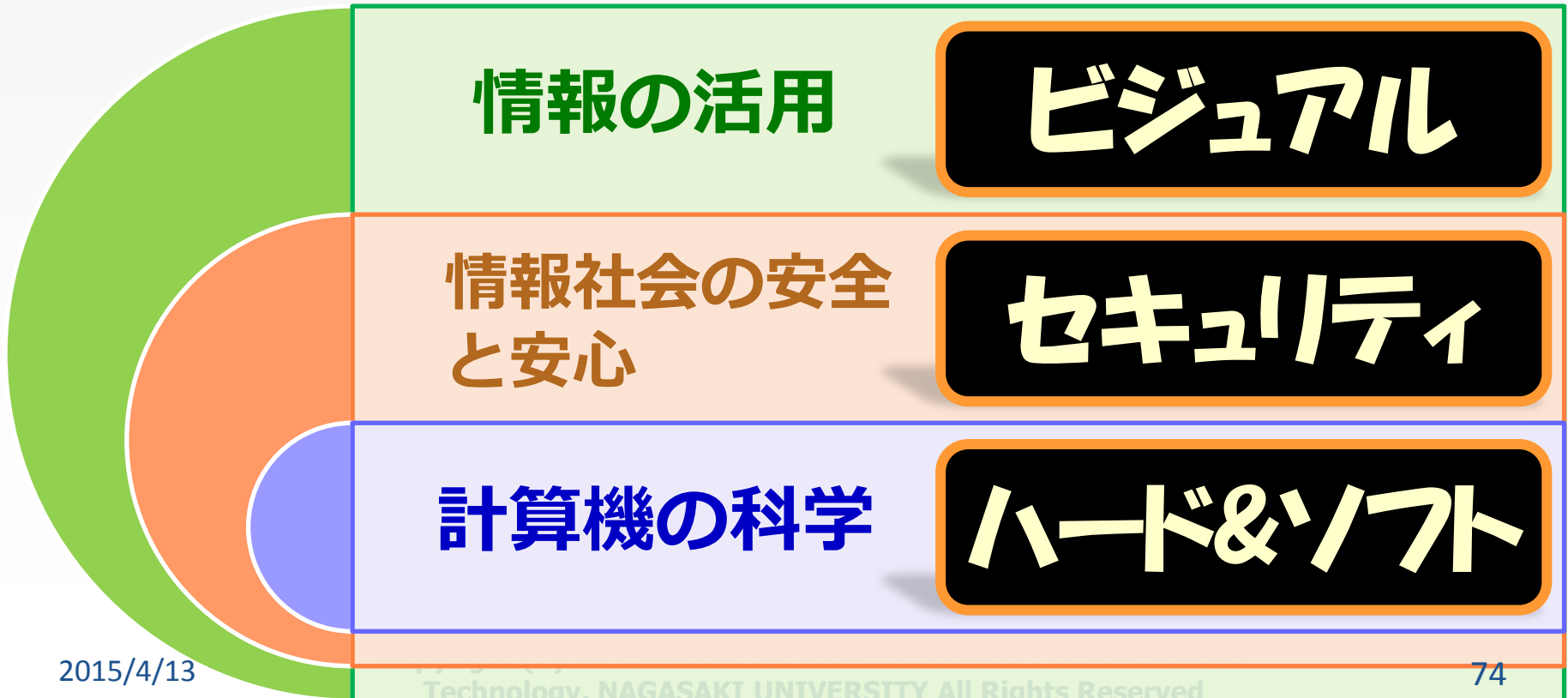
計算機の科学

- コンピュータの中で何が行われているのか，秘密に迫る



目標：「情報」 使えるようになる

- モジュール「暮らしに活かす情報技術」では情報活用，セキュリティ，情報技術の視点で3科目を提供



情報の真実，目撃者はあなたです

暮らしに活かす情報技術

推奨するモジュールⅡテーマ

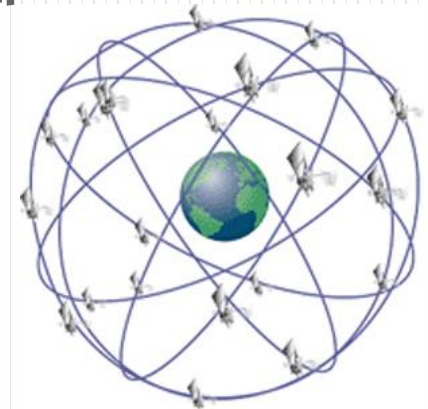
- 「情報社会を考える」
- 「ICTの仕組みと活用法」

15-A12 国際社会を理解するための 多様な視点

責任部局 国際教育リエゾン機構

テーマ責任者 山下俊一（国際教育リエゾン
機構長）

説明者：源島 福己 多文化社会学部



趣旨

- ・ **グローバル社会で活躍を目指す学生が有すべき基本的な素養を長崎の知の蓄積を基盤として教授する。**
- ・ **長崎の江戸時代以降に果たした歴史的な役割を知り、その理解の上に立ってグローバル化する社会を考察する。**



授業科目 1

- **授業科目名：東西文化交流の歴史**
- **担当：姫野順一先生（長崎大学名誉教授、大学院水産・環境科学総合研究科（環境）客員教授）**
- **授業内容：長崎を起点とする東洋と西洋の「知的交流の歴史」を通して、国際交流における文化的・歴史的側面を理解する。**

授業科目 2

- **授業科目名：国際的視点に立った法と政治**
- **担当：嶋野武志先生（長崎大学 産学官連携戦略本部 人材育成部門 人材育成室副本部長・教授）**
- **授業内容：法とは何かを学び、他の国・地域の法、国際法などを概観し、法を生み出す背景としての政治について考える。**

授業科目 3

- **授業科目名：科学技術と社会**
- **担当：山下俊一先生（国際教育リエゾン機構長・国際連携研究戦略本部長 理事・副学長）**
- **授業内容：情報が氾濫する時代において、科学技術社会の光と影の側面を俯瞰し、長崎を足場にしたグローバル化の実践例を多面的に学ぶ。**

求める学生像

- **国境を意識することなく、言語の壁を乗り越えて国際社会で自在に活躍できる人材の育成を目指しています。そのために必要な基礎的な知識や素養と自分の意志や考えを的確に表現できる高いコミュニケーション能力を持った学生を育てていきたいと思っていますので、そのような意識を持った学生の皆さんの参加を歓迎します。**

A decorative graphic on the left side of the slide consists of several overlapping, semi-transparent rectangular shapes in shades of green and blue. One of the shapes is a world map. The shapes are arranged in a staggered, overlapping pattern, creating a sense of depth and movement.

15-A13 コミュニケーション基礎講座

大学教育イノベーションセンター 當山明華

- コミュニケーション基礎講座

コミュニケーション能力は、社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される能力の中でも上位に挙げられている。

このようなコミュニケーション能力を高めるためには、普段当たり前に捉えられているコミュニケーション状況を明らかにし、そのうえで自分自身の能力をより実践的・機能的なものにしていく必要がある。

本科目群では、コミュニケーションを理論的に理解し、基礎的な能力を高めつつ、実践力向上を目指す。



科目構成

科目名	担当者名	キーワード
人間関係の社会学	岡田 佳子 (大学教育 イノベーションセンター)	社会化・家族・ ジェンダー・学校文化・ 階層
メディア・コミュニケーション基礎	深尾 典男 (広報戦略本部)	権力・記号・言説分析・ ポストモダニズム
コミュニケーション 基礎実践	當山 明華 岡田 佳子 若菜 啓孝 (大学教育 イノベーションセンター)	日本語・批判的読み・ 自己表現・ 情報リテラシー



科目概要

科目名	概要
人間関係の社会学	成長と共に広がる人間関係の中で身についていく思考やふるまい、関係性について理解を深める。また、協同学習を通して人の多様性について考える力を身につける。
メディア・コミュニケーション基礎	日常の様々なメディアの影響力を検討し、社会規範の形成や権力の浸透におけるコミュニケーション過程を理解して生活に活かす。
コミュニケーション基礎実践	日本語の「読み」「書き」およびプレゼンテーションやディスカッション等の基礎的な技能を高める。加えて、ソーシャルメディアの可能性や情報化の光と影などについても理解する。






到達目標

- 社会の動きに関心を持ち、客観的に情報を捕らえて分析できる
- 集めた情報を基に考えをまとめ、他者と建設的・創造的に議論ができる
- 他者との円滑な人間関係の構築方法が理解できる
- 他者の多様な価値観と受容的に関わることができる
- 正しい引用、注記方法を用いて論理的なレポートを書くことができる
- 自分自身で自分の学習の習得状況を確認・分析・評価することができる



- 
- 下記のような人を歓迎します
 - コミュニケーションについて関心のある人
 - 他者と共同して学習を進めていくことに関心のある人

⇒前提となる知識は特に問いません。

大学生として、そして、その後の社会人として必要な基礎的能力の向上を目的としたモジュール科目群となっています。

そのため、自分で考えて表現することが多くなります。たかがコミュニケーション、されどコミュニケーションです。

